

平成29年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	建設緑政局道路河川整備部 道路整備課	要素事業所管課	建設緑政局道路河川整備部道路整備課 まちづくり局総務部企画課 まちづくり局市街地整備部地域整備推進課 まちづくり局拠点整備推進室
----------	-----------------------	---------	---------------------------------------------------------------------------

1 計画の概要

計画の名称	川崎市内における高速道路インターチェンジアクセス及び駅等へのアクセスを強化する道路整備	計画の期間	平成25年度～平成29年度
計画の目標	川崎市内における鉄道駅等とのアクセス道路を整備することにより、拠点地区周辺に集中する自動車交通等の適切な誘導や駅への利便性向上、道路ネットワークの構築などを図るため、幹線道路の整備を進めることによる交通機能の強化を推進する。		
計画の成果目標(定量的指標)	川崎市における拠点地区内の幹線道路整備率現況値67%を事業完了後に75%へ向上させる。		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	事業の一部(9事業)をその他関連事業(川崎市内における道路交通の円滑化を推進する道路整備、川崎市内における安全・安心な交通環境の整備(防災・安全))に移行する変更を行った。		

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況(概要)

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	世田谷町田線(登戸)・(片平)、柿生町田線、(国)国道409号(市ノ坪)・(小杉)・(小杉御殿町)、(主)世田谷町田、武蔵小杉駅南口地区東街区、鹿島田西部地区、(主)幸多摩線、万福寺王禅寺線・新百合ヶ丘駅南口線、東京丸子横浜線(市ノ坪)	35,668,000	20,613,000	7,444,000	36	武蔵小杉駅南口地区東街区、鹿島田西部地区の再開発事業、万福寺王禅寺線・新百合ヶ丘駅南口線の駅前広場整備は完成している。
B (関連社会資本整備事業)	—					
C (効果促進事業)	鹿島田駅西部地区公共サイン整備事業	10,000	14,000	7,000	50	鹿島田駅西部地区の公共サイン整備事業完成
全体事業費(A+B+C)		35,678,000	20,627,000	7,451,000 【財源内訳】 国:4,098,000 県: 市:3,353,000	36	

3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	・拠点地区内の幹線道路整備率 一拠点地区内における幹線道路整備率を算出する。			
定義及び算定式	・拠点地区内の幹線道路整備率(%) = 駅周辺1km整備済延長(km) / 駅周辺1km都市計画道路延長(km)			
その指標を設定した理由	・道路整備による拠点へのアクセスに関する指標として設定した。			
当初現況値(H25)	中間目標値	最終目標値(H29)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
・67%		・75%	・71%	・未達成
目標達成状況に対する所見	・拠点区域内の幹線道路整備率に関しては、用地買収率が67%から79%に上がっているものの、連続した用地の確保ができなかったため、整備率は71%に留まった。しかしながら、道路整備に向けた準備は着実に推進していることから、今後も引き続き事業を推進することにより、幹線道路の整備率は上昇すると思われる。			
将来の見込み	・当該事業に位置づけている継続中の各事業については、今後着実に事業を推進することにより、整備率が上がり、拠点へのアクセスが改善されることが期待される。			

4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑時平均旅行速度（km/h） －計画に位置づけられている路線の混雑時における平均旅行速度を算出する。
定義及び算定式	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑時平均旅行速度（km/h）＝Σ（区間距離）/Σ（旅行時間）
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性的な速度低下は大きな経済損失を招くとともに、生活環境の悪化に繋がることから、商業、業務等の機能が集積する駅等拠点周辺の道路整備を推進することにより、道路交通環境の向上に資する平均旅行速度は評価指標としての関連性があるものとして設定した。
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度：16.9（km/h） 平成29年度：18.3（km/h） ・混雑時における平均旅行速度が向上しており、交通混雑の緩和および拠点へのアクセス性の向上が図られたと考えられる。

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意向 内容：市のホームページ、区役所において、事業目的、事業概要、事後結果を掲載し、市民から意見を募集。 手法：担当課への意見書の郵送、FAX、メール、提出などによって意見を募集。 実施期間：8月1日～8月31日 ・バス事業者、トラック協会、タクシー協会等の意向 内容：事業者アンケート調査を実施 実施期間：8月1日～8月31日 ・webアンケート 内容：川崎市在住の市民対象にインターネットによるアンケート調査を実施 実施期間：8月1日から1週間程度
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅や高速道路インターチェンジへのアクセスについて、便利になったとの回答が多く、利便性の向上について成果が出ている。 ・歩行空間の安全性について、安全になったと感じている人が危険になったと感じている人より多く、「安全・安心」について、成果が出ている。 ・災害時の避難場所への移動について、不十分との回答が多く、道路に求める防災に対する意識の高さがうかがえる。 ・走行環境は全体的に良くなっており、整備効果を実感しているという回答がある一方、「改善の必要性がある」との意見も多くあることから、今後も引き続き道路整備を推進する必要がある。

6 今後の方針等

総合的な所見	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点区域内の幹線道路整備率に関して、用地買収率が67%から79%に上がっているものの、整備率は71%に留まった。しかし、道路整備に向けた準備は着実に推進していることから、今後も引き続き事業を推進することにより、幹線道路の整備率は上昇すると思われる。 ・混雑時平均旅行速度が平成25年度の16.9（km/h）に対して、平成29年度は18.3（km/h）に向上しており、交通混雑の緩和および拠点へのアクセス性の向上が図られたと考えられる。 ・道路利用者を実施したアンケートにおいて、道路整備により利便性、安全性など一定程度の効果が出ており、走行環境は全体的に良くなったとの意見がある一方、更なる改善の必要や早期の整備権料を要望する意見もあり、今後も引き続き道路整備を推進する必要がある。
今後の方針	<p>本計画における要素事業である世田谷町田線や国道409号等の現道拡幅や、駅周辺の道路整備を推進することにより、交通機能の強化を図り、拠点へのアクセス性を向上させる。</p> <p>次期計画については、今まで以上に事業を推進するために、現道拡幅、バイパス事業については整備計画「川崎市内における道路交通の円滑化を促進する道路整備」にて、また、歩道整備等の事業については「川崎市内における安全・安心な交通環境の整備（防災・安全）」に整備計画を変更して、川崎市内の拠点へのアクセス強化に資する道路整備を推進していく。</p>
次期計画あり・なし	<p>あり・なし</p>